

小野だより

平成30年度後期評価号
京都市立小野小学校
校長 竹原 篤

学校教育目標
「笑顔いっぱいの子どもの育成」
☎075(571)8282 Fax075(571)8199

ご協力ありがとうございました。

日ごとに春らしくなってまいりました。平素は小野小学校教育活動にご支援・ご協力いただきまして、ありがとうございます。さて、この一年学校教育目標「笑顔いっぱいの子どもの育成」に迫るべく取組に力を入れ進めてきました。今年度後期のアンケートをまとめましたので、お知らせいたします。

前期・後期のアンケートの分析を基に、今年度の成果と課題を見つめ、来年度の学校改善に努めています。保護者や地域の皆様のご支援・ご協力を引き続きよろしくお願ひいたします。

No.	質問内容	児童		保護者		教職員	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	学校に行くのが楽しい。	92.0	87.2	95.9	87.4	100	92.0
2	学校で習ったことは、よくわかる。	87.1	88.9	83.4	88.9	79.2	54.6
3	友だちや先生の話を、最後までしっかり聞いている。	91.3	91.9	74.4	93.3	56.0	25.0
4	授業中、よく発表している。	68.1	66.1	60.8	62.0	87.5	40.0
5	元気のよいあいさつをしている。	78.7	76.4	68.8	70.7	74.1	30.0
6	学校のきまりや約束を、きちんと守っている。	91.3	92.9	90.2	92.3	78.6	32.0
7	当番や係の仕事を、最後までやり切っている。	97.6	97.2	95.0	96.6	92.6	47.4
8	人が嫌がるようなことはせず、友だちと仲よくしている。	94.9	94.8	94.0	93.2	76.0	22.2
9	家庭で読書をしている。	65.7	61.8	43.4	57.6	17.4	28.6
10	宿題や家庭学習を、きちんとしている。	87.6	93.5	78.6	92.5	70.8	45.5
11	寝る時刻や起きる時刻に気を付けて、生活をしている。	73.7	75.2	67.4	71.7	56.5	25.0
12	朝ごはんを毎日食べている。	94.3	92.6	96.6	90.7	91.3	33.3
13	ゲームや携帯（スマホ）をする時間を決めて、守っている。	71.4	71.4	66.0	65.9	56.5	10.0
14	家で学校のことを、話している。	83.5	80.4	81.7	73.2	83.3	6.7
15	進んでお手伝いをしている。	73.0	70.4	56.0	68.0	73.9	9.1
16	学校・学年・学級だよりやHPを見て、学校の様子を知っている。			73.9	77.0	81.8	38.5

後期の「よく出来ている」ポイントは増えていますが、「出来ていない」ポイントも約2割増えました。

今回のアンケートの結果を見ますと、子どもたちの基本的生活習慣に課題が見られます。

⑪「寝る時刻や起きる時刻に気を付けて生活している」では、「出来ていない」のポイントが約2割増えています。毎日の出席状況を振り返っても、2校時以降に登校してくる児童の数が若干増え、遅刻の回数も増えています。これは、⑬「ゲームや携帯（スマホ）をする時間を決めて、守っている」や⑫「朝ごはんを毎日食べている」にも関係してきます。やはり「出来ていない」ポイントが約3割増えています。理由は寝る時に部屋へ携帯電話を持って行き、動画サイトやゲームをして寝るのが遅くなり、朝起きられなくなっています。また冬の間は、朝寒く起きにくくなっています。遅刻者は増えています。

このようなことが続くと、不登校につながっていきます

し、体内時計が狂ってしまいます。体内時計が狂うと、睡眠不足・肥満になりやすい・免疫力の低下・睡眠障害・生活習慣病になりやすくなると言われています。朝日の光を浴び、規則正しい食事をすると体が目覚め、体調が整いやすくなります。

家に帰ったら携帯電話を置く場所を決めて、部屋の持つて入らないようにさせましょう。携帯電話の使い方の約束をもう一度見直してください。

もう一つ気になったのが、⑮「進んでお手伝いをしている」項目です。冬休みがあったのですが、「出来ていない」ポイントが約1割増えています。お手伝いは、子どもに時間の使い方を考えさせるよい機会になります。また、家族の一員として役に立っているという自尊感情を高める働きをし、自己有用感が高まります。

子どもはしたいことがいっぱいあります。したいことを





するために、しなければならないことを早く終えようと工夫します。よりよい工夫をするために、いろいろな方法を考えます。このことが経験となり、これから的生活に大きく役立ちます。また、自分の存在が認められるようになり、自分の居場所が実感できることは何より重要です。

また、家族間で「ありがとう。」「ごめんね。」と言い合えることで、社会に出ても素直に、自然に出てくるようになるでしょう。この言葉は潤滑油になり、人兼関係をスムーズに作っていけるようになるのではないかでしょうか。

大人がした方が早いのは分かりますが、練習なしで本番を迎えるのはとても大変なことです。子どもにチャンスを与えましょう。それが大人の大切な役目だと考えます。

このことについては、⑦「当番や係の仕事を、最後までやり切っている」で証明されていると考えます。それは「よく出来る」ポイントが全学年で増えています。そして、「出来ていない」ポイントは全学年で0ポイントです。やらなければならぬことが分かり、自分のした行動で喜ばれ、褒められると人は嬉しくなります。そして、また人のために何かしようという思いが生まれます。後期は、学校行事がたくさんありました。それそれが役割をもち、やり遂げることによって、周りの人たちから拍手や喝采を受けました。そうすることで自分の居場所が認識できたり作れたりしたと実感したのではないかでしょうか。たて割り活動でも、上級生が行動することによって下級生から慕われたり頼られたりします。そうすることで、意欲や関心が出て次の行動へと続いてきたのではないかと考えています。

⑭「家で学校のことを話している」は、徐々に増えては来ています。しかし「よく出来ている」が全学年で50ポイント～60ポイントの間なので、低いです。特に低学年も半分で終わっているのは、少ないのでないかと思っています。また、保護者の方から「学校の様子がリアルタイムに分からない」という声がありました。

学校でのことは、まずお子さんから聞いてください。学校からも学校だよりや学級だよりを発刊しています。また、学校のことをスピーディにお知らせするのに、HPの更新もしています。ぜひ、ご覧いただきますようにお願いいいたします。

春休みは新年度の準備期間です。新学年に向けて今年度を振り返り、新しい目標に向かって動けるようにしてください。

目標はとても大切です。ゴールがなくては、途中で挫折したり道に迷ったりします。ゴールがあると道に迷ってもやり直したり元に戻ったりできます。

ご家族はぜひ子どもたちの話を聞き、何がしたいのか、何から始めたらいいかよきアドバイスをしてください。過去は変えられなくても未来は変えられます。子どもによって明るい未来になるように学校も考え・実践していきます。保護者の皆様・地域の皆様、今後もよろしくご支援・ご協力をよろしくお願いいいたします。

新しいスタートに向けて！

「ローマは1日にして成らず」と言います。人それぞれ憧れたり尊敬したりする人がいると思いますが、その人たちは、何もせずそうなったのではありません。なりたい自分になるため、日々努力していました。

そこで新年度から、次のことをやっていきましょう。

スタートを大切にしよう！

1日のスタート、朝の起床時刻を大切にしましょう。朝起きるのが遅くなると、気持ちが前向きになりにくく、何かにつけてすべてのスタートが遅れてしまいます。

次に、スタートが遅れることで焦ってしまい、ミスしたり事故やケガにつながったりします。

余裕をもって見直したりやり直したりすると、ミスも減り気持ちの余裕から事故やケガも減ります。

食事を大切にしよう！

自分の体は、自分の食べたものでできていきます。好き嫌いが激しく偏食を繰り返していると、絶対体によくありません。食べられるものの種類を増やすのは、子ども時代が大きな鍵です。食べず嫌いをなくす努力をしましょう。また、食物アレルギーがある場合は、代替食として見た目だけでなく栄養価についても考えていく必要があります。

食事の乱れは、精神的にもよくありません。イライラしやすくなったり脱力感を感じたりしやすくなり、学習に集中できにくくなります。

自分のことは、自分でしよう！

「学力をつける」とは、どういうことでしょう。習ったことを暗記する力でしょうか。ものごとを考える力でしょうか。それはそれで大切な力です。しかし、本来学力とは、1つの力ではありません。いろいろな力が重なり合い、つながりあった力です。その場に合った必要な力を考え方見つけるには、経験・体験が欠かせないでしょう。そのためにも自分のことを自分ですることは大切です。

初めてのことは時間がかかるでしょうが、自分でやってみて不便やできないと自分が実感することで、初めて真剣に考えます。本当に必要に迫られ時、人は必死に考えます。不便なことはもっと便利にならないか、できない事はしたい・できるようになりたいと考え、きついつらい練習も積み重ねられます。

子どもに必要性を感じさせましょう。大人は、必要性を感じる場・実感できる場を作りましょう。与えるばかりではなく、自分で必要なものを探せる力を付けてあげましょう。子どもが自分の力を信じて、積み重ねていってこそ本当の学力であり、身につきます。そして、自分でするからこそ達成感や自己肯定感・自己有用感が実感できます。焦らず慌てず必要な時間をじっくりかけて、子どもと子どもの学力を育てていきましょう。

合言葉は「すべては、子どものために」です。来年度もどうぞ力を貸しください。

